

レポートと『災後の新聞』

毎朝レポートを書き、ウェブサイト公開してから18年になる。残念ながら、退職前の4年間はレポートを中断していた。今も後悔している。「わけ」あって、退職して4ヶ月後、レポートを再開した。2014年9月10日のレポートを振り返りたい。

猛暑の7月30日に4年ぶりにレポートを「再開」して書き続けてきた。9月6日現在で36本を数える。ほぼ1日1本のペースだ。こうして書き続け公開してきたのも、「読者」がいることが大きい。この「レポート集」を紹介した卒業生から、毎日レポートチェックしていると嬉しいメールをもらった。「固定読者」がいることは、書き手にとって励みとなる。

「レポート集」を遡ってもらおうと分かるが、レポートは2003年3月から公開しており、かれこれ11年半にもなる。ところで、「レポート集」は理解のある知人のお世話で長年にわたって、ウェブサイト公開してもらっている。その支援なくして、レポートは存在しなかった。本当に感謝している。知人や「読者」を後悔させないためにも、さらに磨きをかけてレポートを書き続け公開していかなくては。レポートの累計本数は390を数える(2014年9月8日現在、学生の執筆分を除く)。よく書いたものだと感心する。年次別では、最高が2007年の65本、それに06年の60本が続く。2010年は8月末で「終了」となったことで24本にとどまる。それから4年間のブランクとなる。

レポートを勝手に類型別に分けてみると、やはり「まち歩き・旅」が153本と最も多い。そのほか「大学などの活動と思い出」103本、「現代日本社会」61本、「自分史」19本などとなっている。ジャーナリスト「マスコミ評」に寄稿した原稿なども29本を掲載している。また、本や映画などの「書評・コメント」もそれぞれ11本書いている。今後「寅さんシリーズ」を書いていくつもりなので、もっと増えることになるだろう。

レポートについては、これくらいにして拙著のことも書いておきたい。8月21日レポートに「気になる拙著『災後の新聞』」を書いたが、やはり気になる。再び名駅近くの大型書店を訪ねて本を探した。検索すると、前回同様にマスコミ関係の棚に5冊あると出た。また細い眼を丸くして探したが見つからない。今度は店員さんに探してもらった。時間がかかったが、本の中から拙著『災後の新聞』が5冊出てきた。他の本が上に被さっていた。なんということか。こっそり写真に撮ったが、下の白い本が拙著である。こんなことは「最後」にしてほしい。このまま手ぶらで帰るわけにもいかず、まだ家に在庫があるにもかかわらず、1冊買った。もっと分厚い本なら、他の本に邪魔されないうつ帰宅した。本は「ほん」まに、なかなか売れないようだ。



(2021年5月16日)